



# コミュニティ・スクール通信 Vol. 1



上山中学校ホームページ

## 令和5年度第1回学校運営協議会（CS会議）開催

令和5年6月1日（木）14：35より上山中学校で開催されました。

### 《 第1部 》 授業参観（6限）

齋藤教頭先生の案内で、授業の様子を参観して頂きました。

先生方の工夫で、楽しそうに授業を受けている生徒が多かったと協議会で感想を頂きました。

### 《 第2部 》 協議会

#### ○ 開会のあいさつ 山崎 光子 会長

これからを生き抜く力の育成に向け、保護者・地域・学校が一体となり、地域総がかりで支える仕組みを土台とし、地域と共にある学校づくりに踏み出すという趣旨でスタートし、昨年の協議会では、学校経営の基本方針の資料やお話から、改めて協議会の担う役割を考える必要性を感じました。今年度はさらに1歩も2歩も進めた取り組みができるように、皆さまの忌憚のないご意見を頂きながら進めたいと思います。

#### ○ 協議会メンバー紹介～会長・副会長承認～

#### 資料1「令和5年度 上山中学校教育ビジョン」



山崎 光子 会長	県人権擁護委員連合会会長
朝倉 奏 副会長	金寶寺副住職
小野 照子	新潟市議会議員 鳥屋野小学校 CS オブザーバー
山岸 希	地域民生児童委員協議会会長
水品 明美	上山コミュニティハウス職員
藤田 松夫	上山中学校区育成協会会長 上山コミュニティ協議会会長
阿部 洋一	上山中学校後援会会長 鳥屋野コミュニティ協議会会長
吉原 幹治	上山中学校 PTA 会長
白石 誠史郎	上山中学校校長
齋藤 大紀	上山中学校教頭
永井 歆	上山中学校教頭
伊與部 直哉	教務主任
渡辺 学	生徒指導主事
岡本 敏之	特別支援教育コーディネーター
植木 克巳	事務職員
南 恵津子	CS 事務員
須田 恵美子	CS 事務員



## ○ 上山中学校の現状と課題 (資料1参照)

・不登校の生徒や通常学級において特別な支援を必要とする生徒が非常に多く解決が必要。

→ 自分らしさをもって中学生活を送って欲しい。

・生徒たちに主体的な力をつけるには、生徒たちに考えさせることが大事。

→ 職員ひとりひとりがしっかりと考えて生徒たちと向き合う。

・重点項目は「誰一人取り残さない、全ての生徒の可能性を引き出す質の高い教育」。

・「教師が創る学校から」「生徒が創る学校へ」を目指す。

→ 教員から指示ではなく質問をしていくことで、生徒の考える力を付けていく。

### 《 意見交換 》



(委員) 学校はどのように不登校生徒ひとりひとりと向き合おうと考えているか？

→ (学校) 不登校生徒は多く、生徒にとって1番適切な方法は何かをお互いに対話しながら寄り添っている。学校だけでは難しい事案もあり、新潟市の支援サービス・福祉・医療も含め、本人だけでなく保護者の心が少しでも軽くなるように相談機関を紹介して、心のケアにも取り組んでいる。

(委員) 学校に行くことだけが正解ではなく、子ども食堂など他の居場所で新しい学びができるということもある。地元以外の自分のことを知らない人ばかりの環境なら入って行き易いのかなと思う。

(委員) 地域で居場所を探すのが難しい中、不登校の生徒が来ても良いスペースが学校の中にあるのか？

→ (学校) 校内に適応教室があり、いつでも来て話ができる環境・体制を整えている。また誰もいない学校なら登校できる生徒には、他の生徒が下校した夕方に、少し玄関に来て担任と顔を合わせたり話をしたりする、タッチ登校という方法もある。

(委員) 学業の面はどうなるのか、高校受験があるので成績が心配。入学試験を受けるのか、受けて良い成績が取れるのか？

→ (学校) 今は多様な時代で、受けていない授業があったり、3年間休んでいたりしても、卒業生を受け入れて、そこで一生懸命その子を伸ばしてくれる学校がある。全く学校に来なかった生徒も高校に進学し、社会で活躍できる時代になっている。

(委員) 中学校も地域や自治会などと力を合わせる必要があり、幼稚園、保育園、小学校時代からの連携ができているかも非常に大事。

## ○ 閉会のあいさつ 朝倉 奏 副会長

主体的に自分の人生を自分で切り拓くことができる生徒を上山中学校が目指し、そして、そのために意欲を引き出す授業をしていくというお話を聞き、素晴らしい学校だなと思いました。それを実現していく手段として、地域社会との関わりがどんどん持たれる事が大事だと思いました。何が正しくて、何が間違いか、どんどん疑って自分で考えて、自分の人生を自分で切り拓いていく必要性を改めて感じました。